

令和5年 第12回 宇都宮市教育委員会

付 議 事 件 表

令和5年8月22日

1 審議事項

議案番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
議案第27号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について	1	×
議案第28号	令和5年度教育委員会点検・評価報告書について	2	○

2 報告事項

議案番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
報告第43号	令和5年度教育委員会主要事業の進行管理について	3	○
報告第44号	平石中央小学校における公共交通（LRT）を利用した通学区域弾力化による令和6年度入学者の募集について	4	×
報告第45号	教育行政相談の内容と対応について	5	×
報告第46号	「令和5年度宇都宮市幼小連携合同研修会」の開催結果について	6	○
報告第47号	学校等事件・事故について	7	×
報告第48号	宇都宮エスペール賞プロポート事業「エスペール賞受賞者学校派遣事業」について	8	○
報告第49号	第37回宇都宮マラソン大会の開催について	9	×

3 その他

(1)	令和5年度第1回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について	資料	○
-----	-----------------------------------	----	---

議案第 28 号

令和 5 年度教育委員会点検・評価報告書について

令和 5 年度教育委員会点検・評価報告書について，次のように決定する。

令和 5 年 8 月 22 日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

(提案の理由)

令和 4 年度における本市教育委員会が実施した事務の管理及び執行状況について，学識経験者等の知見を活用しながら点検・評価を実施したことから，その内容等について審議するもの

参照 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条

令和5年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、宇都宮市教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価をし、その結果について議会へ報告するとともに、公表するもの

2 「令和5年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書」の概要（詳細は別添のとおり）

(1) 評価対象

令和4年度実施の教育行政全般

(2) 評価方法

ア 自己評価

- ・ 各主管課及び教育委員会による総合的な評価の実施
- ・ 次年度への課題、今後の方向性の明示

イ 外部評価（自己評価に対する評価委員からの意見の聴取）

外部評価委員

藤井 佐知子 委員（宇都宮大学理事・副学長）

谷内 直子 委員（古里中学校魅力ある学校づくり地域協議会コーディネーター）

- ・ 教育委員会評価委員会議における意見の聴取
- ・ 評価票による意見の聴取

(3) 総合評価（詳細は別添P63参照）

「教育委員会の活動」、「教育委員会施策の推進」、「広報・広聴活動」の全てにおいて一定の成果を上げられたことから、令和4年度の取組は本市教育行政の推進に資するものであったと評価する。

(4) 教育委員会評価委員からの主な所見

- ・ 多くの施策が着実に実行され、効果を上げていると思う。それが現場の問題意識と合致しているからこそ、負担にならずに、現場の先生方も頑張れるのだと思う。これからも、現場とのコミュニケーションを大切にして欲しい。
- ・ 報告書は、写真や図表を掲示してわかりやすくまとめられており、全体的に見やすく、わかりやすいものになっている。
- ・ すべての施策に関して、施策目標、施策指標とその成果、施策の評価・分析、今後の施策の取組方針（課題と取組の方向性）が具体的にわかりやすく記載されている。
- ・ 教育委員会だよりやメディアの活用、パブリシティの有効活用などによって市民への情報発信が積極的に行われている。様々な努力を継続していただきたい。

3 今後のスケジュール

令和5年8月25日

市議会との意見交換会

令和5年9月 1日

点検・評価報告書の議会提出

ホームページで公表

報告第43号

令和5年度教育委員会主要事業の進行管理について

令和5年度教育委員会主要事業の進行管理について、次のように報告する。

令和5年8月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

令和5年度 教育委員会主要事業 管理票(令和5年度7月末現在)

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)人づくりの推進			
◆人づくりフォーラム の効果的な開催手法の検討・実施 ◆「宮っ子の誓い」・「子どもの手本となる50の言葉」を活用した周知啓発・機運醸成	4月～ ・人づくりフォーラム事業内容の検討 6月 ・うつのみや人づくり推進委員会を開催 7月 ・運営部会を開催	○「人づくりフォーラム」の効果的な開催 ⇒ 宮っ子ジョブタウン出展事業者・ステージ出演者の調整、協賛の募集を行う。 ⇒ 会場がオリオンスクエアと中央生涯学習センターの2会場になることから、2会場の一体性が感じられる工夫や当日のにぎわいの創出について検討する。	
	4月～ ・広報媒体(市HP,宮っ子ダイアリー等)への掲載 6月 ・「宮っ子の誓い」リーフレットの発行	○イベント等の機会を捉えた周知・啓発 ⇒ 宮っ子の誓い大使に対し、市が主催するイベントのボランティアを募集し、「宮っ子の誓い」の実践の機会を作る。 ⇒ 令和4年度に作成した行動事例集について、人づくりフォーラムでのパネル展示や教育委員会だよりへの掲載などの機会を捉え、周知・啓発に取り組む。	
(2)幼児教育の推進			
◆幼小連携合同研修会の実施・検証	4月～ ・事例発表者等との発表内容の調整(栃木県幼児教育センター,平出幼稚園,山王認定こども園,平石北小学校,富屋小学校) 5月～ ・第1回幼児教育の推進に係る意見交換会 議題:合同研修会開催内容(案)について 6月～ ・参加者の募集開始(対象:幼児教育施設:約120施設,小学校:69校) 7月～ ・開催に向けた準備	○幼小連携合同研修会の実施・検証 ⇒ 本年8月に合同研修会を開催(参加者:96名,うち幼児教育施設:44名,小学校:52名,場所:市教育センター) ⇒ 研修会の結果を踏まえ、今後の幼小連携の効果的な推進方法について検討する。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 学校施設の計画的な整備・更新			
◆校舎・体育館の計画的な長寿命化	4月～ ・星が丘中学校校舎長寿命化改修工事の実施(R4.8月～R6.9月) ※令和4年度からの継続事業 ・上河内中学校校舎長寿命化改修工事実施設計の実施(～R6.2月) 5月～ ・城東小学校体育館長寿命化改修工事実施設計の実施(～R6.2月) ・横川中央小学校体育館改築工事実施設計の実施(～R6.2月) 6月～ ・西小学校校舎長寿命化改修工事の実施(～R8.1月) 7月～ ・体育館長寿命化改修工事の実施(西原小学校・清原南小学校)(～R6.2月)	○校舎・体育館の計画的な長寿命化 ⇒ 長寿命化改修工事の実施による学校生活への影響等について、学校や地域に対し、丁寧な説明を行っていく。 ⇒ 脱炭素化など学校施設に対する多様なニーズに対して、市全体の方針等を踏まえながら改修や改築における対応を検討していく。	
(2) 学校トイレ洋式化の計画的推進			
◆校舎・体育館トイレ改修工事の円滑な実施	7月～ 校舎トイレ改修工事の実施(小学校14校)(～R5.12月)	○校舎・体育館トイレ改修工事の円滑な実施 ⇒ 工事による学校生活への影響等を最小限とするため、実施時期などについて、学校や庁内関係部署と綿密な連携・調整を図っていく。 ※12月～ 体育館トイレ改修工事の実施(小学校9校, 中学校2校)(～R6.2月) →校舎・体育館トイレの洋式化率(見込み):78.0%(R6.3月末予定)	

学校管理課

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)学力の向上(GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進)			
◆全児童生徒の学びの保障に向けた授業内外における端末の活用	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・指導資料の全教員への配布 ・協働学習ツール, AI型個別学習ドリル, MEXCBTの活用開始 ・学習者用デジタル教科書(英語等)実証事業の開始 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問における指導・助言の開始 ・小学校新1年生の端末使用開始 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・協働学習ツールに係るアンケートの実施 ・教育データ利活用に係る先進自治体視察(大阪府箕面市) 	○全市的な取組水準の向上 ⇒ 教職員に対して「リアルとデジタルのベストミックス」に係る指導資料を配付することにより, 学びの本質に迫るための1人1台端末を活用した授業改善に努める。 ○協働学習ツールの継続導入 ⇒ 令和5年度末で三年間の無償提供期間が終了する協働学習支援ツール「schoolTakt(スクールタクト)」について, 継続導入を検討する。 ○学力向上に向けたデータ利活用の検討 ⇒ AIドリルや各種学力調査, 協働学習ツール等から得られる学習関係のデータや学校生活から得られる生活関係のデータを基に分析する方法について検討するとともに, データを一元化し可視化する方法についても調査研究を進め, 今後の学力向上に係る取組について検討する。 ⇒ GIGAスクール構想推進会議を開催し, 学識経験者や国の学校DXアドバイザーからの意見聴取を行うとともに, 市のDX補佐官等からの意見聴取を行いながら, 取組を推進していく。	
	◆STEAM教育の基盤となる「U-STEAM学習」の実施	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回校長会議で説明 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルシティ体験URLを通知 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回教育に係る意見交換会において, 校長会と意見交換 	○デジタルシティ体験の全校導入 ⇒ デジタルシティ体験URLを全校に通知するとともに, 市教育センターサーバーへの移設を完了させ, 利用促進に努める。 ○モデルプラン・年間指導計画への位置付けについて検討 ⇒ 校長会との意見交換を踏まえ, 小・中学校のモデルプランの作成と年間指導計画への位置付けについて, 市教委で検討を進める。 ○U-STEAM学習の実施 ⇒ モデルプランの自校化を通して, 小学校においては, 令和6年度から, 中学校においては, 令和7年度から実施できるよう, 周知・助言等に努める。

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2)児童生徒指導等の強化			
◆「いじめ防止基本方針」に基づく各種取組の実施	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導推進強化全体会の開催(4/28) ・親学出前講座の実施(～3月) ・ネットいじめ等パトロール事業の実施(～3月) 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間の実施 ・「ノースマホ・ノーゲームデー」の実施 ・いじめ等問題行動対策連絡会の開催(5/26) ・各地域学校園児童生徒指導強化連絡会の開催 6月 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロポスターの募集(～9月) 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSトラブル防止に係る啓発チラシの作成・配付 	○SNSを通じた生徒間トラブルが頻発しており早急な対応が必要 ⇒ 警察署と連携し、SNSトラブル防止に係る啓発チラシを作成	
◆スクールソーシャルワーカー活用事業の実施	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・SSWによる学校・家庭への支援 5月～ <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導推進強化全体会への参加 ・各地域学校園児童生徒指導強化連絡会への参加 ・青少年心理アドバイザーの講座及び事例検討会への参加(5/28 6/28 7/28) 6月 <ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制整備事業説明会への参加 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回栃木県スクールソーシャルワーカー研修会への参加(7/20) ・河内地区スクールソーシャルワーカー連絡会への参加(7/28) 	○スクールソーシャルワーカーのさらなる活用に向け、学校現場での理解促進が必要 ⇒ これまでスクールソーシャルワーカーを活用したことがない学校への個別訪問説明を実施	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
学校健康課 (1)体力向上の推進 ◆教科指導の充実 ◆「元気っ子健康体力チェック」の実施 ◆「うつのみや元気っ子チャレンジ」の実施 ◆「体力向上サポーター派遣事業」の実施 ◆「うつのみや版ミニmam」達成に向けた取組	4月 5月 ・体育主任研修 ・「元気っ子健康体力チェック」実施(～6月) ・栃小教研宇都宮支部体育部会研修会において講話 ・「体力向上サポーター派遣事業」実施 栃木サッカークラブ「ゆめプロジェクト」7校 宇都宮ブレックス「キッズモチベーションプロジェクト」4校 6月 7月 ・「うつのみや元気っ子チャレンジ①」実施 ・「うつのみや元気っ子チャレンジ(夏休み版)」実施	○教科指導の充実 ⇒ 体育主任研修(4月)や栃小教研宇都宮支部体育部会研修会(11月)などにおいて、「宇都宮市学校健康教育推進計画」に基づいた指導の展開に加え、「コロナ・リカバリープラン」としての体力向上の推進について指導・助言を行っていく。 ⇒ 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、各学校において、体育の授業等で体力向上を推進するよう指導・助言を行っていく。 ○各種運動の基礎となる技能や体力の定着 ⇒ 体育主任研修(4月)や栃小教研宇都宮支部体育部会研修会(11月)などにおいて、全児童生徒に身に付けさせたい体力や技能を明確化した「うつのみや版ミニmam」への取組をとおして、体力や技能の向上を図るよう、各学校に指導・助言を行っていく。 ○日常的に運動に親しむ児童生徒の育成 ⇒ 児童生徒が主体的に体力向上へ取り組めるよう、デジタルを活用した「うつのみや元気っ子チャレンジ(夏休み版)」を実施するなど、授業以外や家庭で体を動かす機会を創出していく。 ○運動意欲を喚起するための取組の工夫 ⇒ 児童を対象として、プロスポーツチームと連携をした「体力向上サポーター派遣事業」を実施する。 ・ 栃木サッカークラブ「ゆめプロジェクト」 ・ うつのみやブレックス「キッズモチベーションプロジェクト」	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2) 適切な部活動の推進及び部活動の地域移行に向けた段階的な取組の推進			
◆適切な部活動の推進	4月 ・部活動指導員派遣事業の実施 継続者委嘱(運動部12名) 5月 ・部活動地域指導者活用事業の実施 66名配置(運動部59名・文化部7名) ・部活動地域指導者・部活動指導員研修会開催 6月 ・部活動指導員新規委嘱(運動部2名・文化部2名) 7月 ・ 〃 (運動部1名) ・部活動地域指導者新規配置(文化部1名)	○部活動方針の運用の徹底 ⇒ 研修会や学校訪問等において運用の徹底を図れるよう指導・助言する。 ○部活動地域指導者及び部活動指導員の資質向上 ⇒ 研修会等を通して、指導方法や事故防止など、指導者の資質向上を図れるよう指導・助言する。 ○部活動指導員の確保 ⇒ 部活動指導員を公募し、指導者を派遣する。また、学校や各種団体等と連携を図り、人材確保に努めていく。 ○休日の部活動の地域移行に係る段階的取組の推進 ⇒ 課題の抽出などを目的とした調査や意見交換会などを、関係各課・学校・関係団体等と実施し、地域移行に向けた対応策を検討する。	
	◆部活動の地域移行に向けた段階的な取組の推進	5月 ・第1回作業部会開催 6月 ・第1回企画調整チーム会議開催 7月 ・学校への実態調査の内容検討	○企画調整チーム会議の開催 ⇒ 部活動を段階的に地域に移行できるよう、課題の洗い出しや対応策の検討、今後の部活動地域移行に係る取組の検討を行う。 ○中体連・中文連代表との意見交換会の開催 ⇒ 部活動の地域移行を段階的に進めていく際の考え方や今後の取組等について説明・意見交換を行う。 ○学校への実態調査の実施 ⇒ 本市小・中学生及び保護者、小・中学校教職員、中学校に対する実態調査を行い、部活動の地域移行を進める際の参考とする。 ○宇都宮市部活動方針の見直しの検討 ⇒ 部活動の休養日・活動時間の見直しなどを検討し、適切な部活動の運営を図る。

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
学校健康課 (3) 食育の推進 ◆ 給食の時間や教科等における食に関する指導の充実 ◆ 「宮っ子ランチ」の提供や「宇都宮学」と関連した食文化の学習の推進 ◆ 学校給食における地場農産物を活用した取組の充実 ◆ デジタルの活用などによる家庭と連携した取組の推進	4月 ・令和5年度食育の方針の全校周知 ・「お弁当の日」の実施開始(通年) 5月 ・第1回学校食育研究会議の開催 ・「宮っ子ランチ」春メニューの全校実施 ・第18回うつのみや食育フェア実行委員会開催 6月 ・新任食育主任研修会の開催 ・第18回うつのみや食育フェア第1回運営部会 ・地産地消強化週間の取組の実施 ・国本西小と生産者との供給マッチング事業開始 7月 ・「宮っ子ランチ」夏メニューの全校実施 ・トマト料理コンクール募集開始 ・第2回学校食育研究会議の開催	○食に関する指導の充実 ⇒ 学校全体で計画的・組織的に食育に取り組んでいくよう、研修会等により学校へ働きかけていく。 ○食文化の学習の推進 ⇒ 学校が、「宮っ子ランチ」や、宇都宮学副読本にある地場農産物及び郷土料理を取り入れた給食を提供するとともに、これらを活用した食文化の学習に取り組めるよう好事例の紹介等を行っていく。 ○地場農産物の使用割合の向上と指導の充実 ⇒ 地場農産物を適正価格で入手しやすくする仕組の構築や、トマト給食の実施に取り組んでいく。 ⇒ 地場農産物に関する指導資料を新たに作成するほか、既存の資料を集約し、学校へ提示していく。 ⇒ 6月に引き続き、11月にも地産地消強化週間を実施する。 ○家庭と連携した取組の推進 ⇒ 学校へ、デジタルの活用などによる家庭と連携した食の指導の好事例や教材等を紹介するほか、「元気っ子生活習慣チェック(デジタル版)」を作成し、活用を促していく。 ⇒ 全小・中学校において、年2回以上、家庭と連携した「お弁当の日」を実施する。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 効果的な地域教育の推進			
◆デジタル技術の活用	4月～ ・オンライン講座を実施するためのWi-Fiを各生涯学習センターに配置(28日～) ・「宇都宮市電子図書館」本稼働 5月～ ・「二十歳を祝う成人のつどい」該当者届の電子申請運用開始(24日～) ・ビジネス支援講座で動画配信を実施(東) 6月 ・「はじめてえほん事業」を「教えてミヤリー」で情報発信 7月 ・「U@りんくす」でのオンライン図書館見学会を実施(19日:中央)	⇒ 宇都宮市民大学において、市内の専門学校と連携し講座の録画配信を実施する。 ⇒ 成人のつどい当日受付や市民大学受講申込みにおいて、市民の利便性向上のためのデジタル技術を活用した申込み方法等を検討する。 ⇒ 図書館情報システム移行にあわせた図書館HPの充実や登録手続きの電子化に取り組むほか、生涯学習情報提供システム(マナビス)やSNS等を活用した情報発信に取り組む。	
◆読書環境の充実	4月～ ・「はじめてえほん講座」を従来の講義形式からより気軽に参加してもらうことを目的に、絵本の読み聞かせをメインとした「ちっちゃなおはなし会」に名称変更し実施(3回/年11回) 6月～ ・読書バリアフリー法を踏まえた新規取組検討(マルチメディアデイジー導入等) ・小学生が選ぶ児童文学賞「うつのみやこども賞選定会議」(2回/年10回)及び「第39回うつのみやこども賞受賞記念講演会」(25日)実施 7月～ ・高校生が編集する読書情報誌「MIYATEEN編集委員」実施(1回/年4回) ・宇都宮市立図書館におけるLRT開業記念図書館利用カード発行	⇒ 市民の主体的な読書活動を促す機会の充実を図るため、LRT開業記念事業(開業記念図書館利用カード発行、企画展示など)や子どもの読書活動のきっかけとなる講座を工夫して実施。 ⇒ 誰もが読書に親しめる環境づくりを進めるため、読み上げ・拡大等の様々な機能がついた「マルチメディアデイジー図書」や、その他アクセシブルな資料の充実を図るとともに、これらの内容の市民周知・啓発に取り組む。 ⇒ 図書館資源の活用方法を市民に広く周知し、レファレンスサービスの充実を図るため、調べ方案内(パスファインダー)の内容を整理していく。	・R5.6 教育委員会(報告) 宇都宮市立図書館におけるLRT開業記念事業について
◆企業等との連携した学習の推進	6月 ・企業ヒアリング(28日) 宇都宮工業団地管理協会 学び直し(リカレント教育)に係るニーズ確認 7月 ・大学ヒアリング(26日) 文星芸術大学 ニーズに即した学びについての意見聴取	⇒ 企業等のニーズや学びを提供する大学との意見交換を踏まえ、学び直しに関する講座を実施する。(11月～) ⇒ 国が進める育成プログラムや市内大学の公開講座など、市民の学び直しへとつながる各種情報を収集し、広報紙や市ホームページに掲載して周知啓発に取り組む。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2) 宮っ子ステーション事業の円滑な運営			
生涯学習課	<p>◆子どもの家の安定した運営に向けた指定管理者への指導・監督・助言の実施</p> <p>4月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の指定管理者の業務報告に合わせた事務打合せの実施 ・指定管理者の本部職員, 支援員, 利用者, 地域からの個別の相談対応・意見交換の実施 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の業務報告内容に係るブロックごとの現地確認の実施 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施上の留意点や市のサービス向上案の共有のため, 各指定管理者を集めた事務連絡会開催 ・管理運営評価(一次評価)の実施 	<p>○子どもの家事業の安定運営</p> <p>⇒ 指定管理者の毎月の業務報告や随時の相談対応・意見交換に加え, 10月から12月にかけて実施する実地調査や利用者アンケート, 地域との意見交換会等により, 現場の運営状況や利用者・地域の意見を正確に把握し, 指定管理者への必要な支援・指導を実施することにより, 利用児童及び保護者のサービス向上を図る。</p>	
	<p>◆放課後子ども教室の実施校区拡大に向けた地域支援の充実</p> <p>4月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5アドバイザーリストの作成(企業による体験・活動の充実, 見やすさ・検索性の改善) <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施校区の地域団体への事業説明(国本西小) <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施校区(12校区)の地域団体への実施に向けた検討依頼通知の発送 ・実施校区(55校区)へのR5アドバイザーリストの発送 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施校区の地域団体・関係者への事業説明等(平石北小, 海道小) ・コーディネーター等向け第1回研修会(赤十字救急法)の開催 	<p>○未実施校区への働きかけ</p> <p>⇒ 実施意向の寄せられた地域に係る地域団体(宮ステ・魅力協)に対しては, 新規立ち上げに向けた詳細の打合せやコーディネート等を積極的に行う。</p> <p>⇒ 働きかけに対して反応がない未実施校区については, 地域団体が抱える課題の検証を行うとともに, その内容に応じた具体的な課題の解決策の提案や, 立ち上げに向けた積極的な支援を行う。</p> <p>○既実施校区の活動内容拡充に向けた支援</p> <p>⇒ コーディネーター向け第2回研修会(講座の企画・好事例の共有など)や, 随時の情報提供などを通じ, 学習支援やスポーツ・文化活動, 交流活動への支援を行っていく。</p>	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1) 歴史文化基本構想の推進			
◆HP・VR等を活用した歴史文化の普及啓発	4月 ・「宇都宮の歴史と文化財」ホームページに宇都宮学ページを拡充し、公開 5月 ・宇都宮歴史文化資源活用推進協議会総会 6月 ・文化財ボランティア養成講座(6名) ※参考 VRゴーグル利用者 855人(7月末) ホームページアクセス数144,507件(7月末)	○エイト・ストーリーや宇都宮城映像コンテンツの利用促進 ⇒ ホームページや広報紙など様々な広報媒体で「エイト・ストーリー」や宇都宮城映像コンテンツをPRするとともに、文化財めぐりや各種イベントにおいて宇都宮城VRを体験する機会をつくるなどの取組により、利用を促進していく。	
◆宇都宮市文化財保存活用地域計画の策定(令和5・6年度2年間での策定)	6月 ・「宇都宮市文化財保存活用地域計画」策定業務委託業者決定 ・文化庁協議 7月 ・委託業者との打ち合わせ ・保存・愛護団体等に保存活用に関するアンケート実施(90団体)	○宇都宮市文化財保存活用地域計画の策定 ⇒ 委託業者と密に連携を図りながら、文化財保存活用地域計画の項目・内容について検討を進める。策定にあたっては、文化庁と適宜協議を行っていく。	
◆宇都宮市民遺産制度の推進	4月 ・宇都宮市地域まちづくり推進協議会で制度説明(役員会) 5月 ・宇都宮市地域まちづくり推進協議会で制度説明(全体会) ・みや遺産を紹介するパネル展示(飛山城史跡公園～6/25) 6月 ・市民ホールにてみや遺産紹介のパネル展示(6/26～6/30) 7月 ・令和5年度市民遺産募集開始(～9/29) ・広報うつのみやに特集記事掲載(令和4年度認定みや遺産を紹介) ・令和5年度認定に向けた事前相談受付(2件)	○令和5年度認定に向けた審査の実施 ⇒ 令和6年1月下旬の認定に向け、審査や宇都宮市民遺産会議への意見聴取を円滑に進めていく。 ○認定遺産の魅力発信 ⇒ 広報紙への掲載やパネル展の実施などのPR事業を行う。 (みや遺産を紹介するパネル展示(うつのみや遺跡の広場11/1～1/11, 清明館1/13～3/24)) ○認定団体へ支援の実施 ⇒ 令和2～4年度認定団体への補助金交付など団体の活動支援を行う。	

文化課

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2)日本遺産を通じた大谷石文化の保存・活用の推進			
文化課	<p>◆日本遺産魅力発信事業の推進</p> <p>4月～ 5月～ 7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍「大谷石文化への誘い」発売開始 ・「大谷石文化サポーター」の募集(継続) (団体サポーター登録数21件) ・Instagram・Twitterによる情報発信(継続) ・宇都宮市大谷石文化推進協議会 総会 ・業務委託公募開始(ガイド初級講座・大谷石文化学連続講座運営業務, シンポジウム, プロモーション) ・令和5年度第1回日本遺産連盟幹事会 ・大谷石文化学連続講座 受講申し込み開始 	<p>○日本遺産「大谷石文化」の魅力発信事業の実施 ⇒ 大谷石文化学の講座やガイド育成講座を実施のほか, SNS等での周知や, PRイベント等への出展を実施する。</p> <p>○「大谷石文化サポーター」の募集 ⇒ 団体サポーターについて, 指標の30件以上となるよう, 募集を継続して実施する。</p>	
	<p>◆大谷地域の重要な文化的景観選定に向けた取組</p> <p>4月 5月 6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係課長会議 ・関係担当者会議, 文化庁協議 ・大谷地域における宇都宮土木事務所と宇都宮市との調整会議, 文化庁文化的景観審議会現地調査 	<p>○重要な構成要素権利者からの同意取得 ⇒ 現在同意を得られていない重要な構成要素権利者に対し, 丁寧な説明を行い, 同意を得られるよう協議を進める。</p>	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(3)百人一首事業の推進			
<p>◆宇都宮百人一首市民大会の開催</p> <p>◆蓮生記念全国競技かるた宇都宮大会の開催</p> <p>◆普及啓発事業の実施</p>	<p>4月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百人一首クリアファイル、学級かるたの販売(通年) ・百人一首ポロシャツ・トートバックの販売(通年)※宇都宮市文化協会と共催 →令和3年度に募集した『あなたの好きな百人一首和歌』上位5首を文化協会会員の書道家が揮毫 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うつのみや百人一首市民大会実行委員会(6/6) →事業計画等の検討 ※新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」へと引き下げられたことから、国や県の指針、全日本かるた協会の大大会開催ガイドラインをもとに、参加人数、チーム数や競技の進行等を原則コロナ禍以前(R1年度)の手法に戻すことを決定。 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百人一首市民大会の参加者募集開始(7/3～9/8) ※市公式Twitterを活用した周知をあわせて実施 ・市民ホールサブホールにて、百人一首のパネル展示(7/3～7/6) ・市内5か所の図書館にて、百人一首市民大会の募集要項と百人一首の関連図書を合わせて展示(7月下旬～8月中旬) 	<p>○ 9/23 蓮生記念第10回「全国競技かるた宇都宮大会」E級の部の開催(ユウケイ武道館)</p> <p>○10/28 蓮生記念第10回「全国競技かるた宇都宮大会」E級以外の部の開催(ブレックスアリーナ宇都宮)</p> <p>○10/29 第29回「うつのみや百人一首市民大会」の開催(ブレックスアリーナ宇都宮)</p> <p>○12/9 第13回「うつのみや百人一首グランプリ決定戦」の開催(大運寺檀信徒会館)</p> <p>○普及啓発事業 R6.2 百人一首いろは新聞の発行</p>	

文化課

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)地域スポーツの推進			
スポーツ振興課 ◆地域スポーツクラブ事業の推進 ◆市民のスポーツへの関わりの状況等の調査の実施	4月 ・地区追加補助金創設に伴う補助金要綱改定 5月 ・宇都宮大学とのクラブ訪問(2回) ・国本地区関係者との新規クラブ立ち上げに関する打合せ ・各クラブPR動画の撮影・放映 ・令和5年度第1回地域スポーツクラブ連絡協議会開催 ・クラブ、スポーツ振興財団、市による3者検討会を実施 6月 ・スポーツ振興財団及び市による各クラブへの訪問調査を実施 ・地域スポーツクラブフェスタ開催支援 7月 ・まちづくり協議会役員会へのクラブ立ち上げ及びカバー地区追加支援に関する情報提供を実施	○新規立ち上げに向けた地域の意識醸成 ⇒ クラブ活動の意義を理解促進させながら準備委員会の設立を支援する。 ○地区追加補助金の活用によるクラブの地区追加支援 ⇒ カバー地区数の増加に向け、各地区まちづくり協議会等への情報提供を行うとともに、各クラブとの調整を進める。 ○宇都宮大学との連携による、既存クラブの課題解決策検討 ⇒ 既存クラブにおける会員減少や後継者不足などの課題に対する解決策検討を行う。 ○スポーツ振興財団による参画 ⇒ 既存クラブとの検討会やクラブ創設に向けた地元説明会等への財団職員の参画により、今後財団が担う役割等の調整・創出を図る。	
	4月 ・調査業務プロポーザルの事前準備 5月 ・スポーツ振興財団との意見交換 6月 ・調査業務プロポーザルの実施 7月 ・調査業務契約候補者の決定	○市民ニーズ、生活スタイルの把握 ⇒ 市民のスポーツへの関わりの状況等の調査を実施し、多様化する市民ニーズ、生活スタイルの把握による、スポーツ実施率向上に向けた施策検討を行う。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2)スポーツ活動環境の充実			
◆北西部地域体育施設の整備の推進	4月 ・CM業務委託契約 ・基本設計者選定プロポーザル公告 ・交通管理者など関係機関等との調整 6月 ・第2回・3回技術審査委員会開催 (基本設計業務契約候補者選定) 6月～ ・用地取得に向けた各種業務委託 7月～ ・基本設計業務委託 ・事業認定に係る関係機関との調整	○CM業務の活用及び基本設計等の実施 ⇒ CM業務を活用しながら基本設計及びDBに係る要求水準の整理など事業全体のマネジメントに取り組む。また、費用対効果を踏まえたZEB化の実現について、庁内合意を図る。 ○事業認定の承認及び権利者との事前交渉 ⇒ 事業認定について、早期の認定判定につなげるとともに、関係課と連携しながら、円滑な用地取得に向けた事前交渉に取り組む。	
◆宮原運動公園の再整備	R4.10月～ ・野球場改築工事 4月 ・国補助金(R5年度分)交付申請 5月 ・国補助金(R6年度分)概算要望	○円滑な整備工事の実施 ⇒ 国補助金の活用を図りながら、遅滞なく工事を進めるとともに、竣工後の供用式典の開催や、施設供用について、利用者・関係団体へ適切に周知するなど円滑な運用につなげる。	
◆清原球場の改修	4月～ ・球場内外での整備内容等について整理	○改修の方向性の整理 ⇒ 現球場で実施可能な整備内容や、球場外への整備等も含め、球場改修の方向性について、庁内合意を図る。	
◆スポーツ施設への空調設置	R5.2月～ ・明保野体育館空調設置等改修工事实施設計 6月 ・河内体育館空調設置等改修工事实施設計	○優先順位に基づく空調設備の設置 ⇒ 施設の利用状況等を踏まえ整理した優先順位に基づき、実施設計や改修工事に計画的に取り組む。	

スポーツ振興課

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(1)特別支援教育の推進			
教育センター ◆特別な支援を必要とする児童生徒の個別最適な学びに向けた教員の指導力や学級経営力の向上	4月 <ul style="list-style-type: none"> ・新任特別支援学級等担当教員研修の実施（悉皆） ・特別支援学級等担当教員研修の実施（悉皆） ・特別支援教育コーディネーター研修の実施（悉皆） ・指導主事や市教委会計年度任用職員（学校生活適応支援アドバイザー業務）等による学校訪問（通年）の実施（7月末 27校81ケース） 5月 <ul style="list-style-type: none"> ・かがやきルーム担当者研修の実施 5月～ <ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導の充実に向けた自立活動の授業研究（宇大との連携事業） 6月 <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮学級緊急対応業務（市会任職）の追加配置（2校） 	○特別支援学級等担当教員の指導力や学級経営力の向上 ⇒ 指導主事が学校訪問し、特別支援学級等担当教員に対して、直接指導・助言を行うことで、特別な配慮が必要な児童生徒への指導力向上を図る。 ⇒ 通級指導教室と在籍校が、スプレッドシートにより、児童生徒の指導に係る情報を共有することで、個に応じた指導の充実が図れるようにする。 ⇒ 通級指導教室担当者への訪問指導や通級指導教室担当者研修会を実施することにより、社会的自立に向けた指導の充実を図る。 ⇒ 学校生活への適応が困難な児童生徒が在籍する学校に対して、学校生活適応支援アドバイザーによる学校訪問の活用を積極的に提案し、校内体制の構築や特別支援学級の経営力の向上及び児童生徒の学校生活の安定を図る。 ⇒ 特別支援学級に在籍する児童生徒が、自らの力を最大限に発揮できるよう、すべての特別支援学級等担当教員が、「宇都宮市学校教育に係る合理的配慮の手引き」を参考にして、児童生徒の特性や理解度に応じた効果的な学習が展開されるように、1人1台端末等を有効活用し、個別最適な学びの実現を図る。	・R5.5教育委員会（報告） →教育支援委員会から答申を受けた対象者の就学先について ・R5.5教育委員会（審議） →教育支援委員会への諮問について ・R5.5教育委員会（審議） →教育支援委員会委員の解職及び委嘱について
	◆特別支援教室や通級指導教室等の支援体制の見直し	5月 <ul style="list-style-type: none"> ・かがやきルームを利用する児童生徒の活用報告書による利用者数の実態調査 ・通級による指導を必要とする利用児童生徒数調査 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校長会とのかがやきルーム支援員の配置に関する意見交換会の実施 	○特別支援教室の弾力的な運用 ⇒ 児童生徒一人一人の状態に応じた学習や行動面での支援の充実を図るため、指導員の配置形態（1校を1名が担当）の見直しを実施する。 ⇒ 見直しにあたっては、庁内関係課長等会議や学校との意見交換会を実施するなど、合意形成を図る。 ○通級指導教室の充実 ⇒ 指導の実施形態（自校通級、他校通級）や教育的効果、保護者等の負担などを総合的に勘案し、各学校や地域の実態を調査し、効果的な実施形態や運用に向けた検討を行う。

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
教育センター ◆適切な学びの選択に向けた関係機関との連携の充実	4月～ 5月 6月 7月 ・就学相談の開始 ・就学相談業務の見直しや相談体制の検討 ・R6年度入学予定児童に係る子ども発達センター及び特別支援学校との情報交換 ・就学に向けた年少・中児の保護者学習会の実施（子ども発達センター） ・ELV設置に向けた業務委託打ち合わせ ・R6年度特別支援学級新設に係る施設設備調査 ・R5年度医療的ケア児台帳の作成 ・適切な学びの選択に向けた子ども発達センターとの担当者会議の開催	○合理的配慮の提供 ⇒ 医療的ケアなど特別な教育的支援を必要とする児童について、早期に発達センター及び保育課等と情報共有を行い、入学時に必要となる合理的配慮を把握し、関係各課と対応について検討を行う。 ⇒ インクルーシブ教育システムの推進に向けた合意的配慮の提供について、入学時から安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、市全体のバランスの取れた基礎的環境を整備するため、ELV等の設置に向けた実施計画を推進する。 ○就学相談の充実 ⇒ 教育センターや子ども発達センターで実施する保護者向け学習会において、年中・年長児の保護者に対して就学に向けた相談や学びの場についての情報を早期に提供することで、幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた、適切な就学先を速やかに決定することができるよう就学相談を効率的・効果的に実施していく。	

事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
(2)不登校対策の推進			
<p>◆学校の不登校対応力の向上</p> <p>◆児童生徒の状況に合わせた不登校支援の充実</p> <p>◆関係各課等と連携した不登校対策の推進</p>	<p>4月 ・児童生徒指導推進強化全体会の開催</p> <p>4月～ ・スクールカウンセリングマネージャー・メンタルサポーター連絡会の開催</p> <p>5月～ ・不登校対策プロジェクト便りを発行し、各小中学校に周知</p> <p>6月～ ・フリースクール等の民間施設への視察(3施設)</p> <p>・児童生徒指導強化連絡会の実施(25地域学校園:年2回)</p> <p>・教職員研修の実施(学校教育相談基礎研修・不登校対応力向上研修)</p> <p>・Q-Uの配付・実施(6・11月:小3～中3,小5・中1のみ年2回実施)</p> <p>7月～ ・不登校対策に係る学校訪問(小学校3校・中学校6校)</p> <p>・教育相談担当指導主事によるスクールカウンセラー・メンタルサポーターの活用状況の調査及び指導(新規6校・配置換え6校)</p> <p>・別室登校支援学生ボランティアの派遣(予定:前期26校:9月～10月末・後期28校:10月中旬～1月末)</p> <p>・教育委員会各課への照会(不登校対策に係る取り組みの評価)</p>	<p>○学級経営の充実と不登校児童生徒の「今」の状況に合わせた支援の推進</p> <p>⇒ 社会的自立に向けた力を育むため、児童生徒が安心して過ごせる教育環境を整え、人との関わりや多様な経験を積むなど、学級経営の充実を図る。</p> <p>⇒ 不登校児童生徒一人ひとりに応じた多様で適切な教育機会の確保に努めるため、個別の状況に合わせた目標や手立ての再検討を組織的に行い、必要に応じて校内支援体制の見直しを行う。</p> <p>⇒ 指導主事による学校訪問を通して、不登校児童生徒数が減少している学校の効果的な取組や、不登校数が増加している学校の課題等を把握し、不登校の未然防止に繋がる具体策について、教育委員会と学校が連携し、検討・実践していくことで、不登校対策の充実を図る。</p> <p>○関係各課と連携した不登校対策の推進</p> <p>⇒ 「不登校対策プロジェクト便り」の発行や不登校に係る各課の取組について進捗状況を確認するなど、引き続き、教育委員会各課と連携しながら支援の充実を図る。</p> <p>⇒ 教育委員と現場の教職員による「ふれあいティータイムトーク(8月開催予定)」において意見交換される「児童生徒の別室登校の様子や実態、相談内容について」の内容を参考に、今後の不登校対策の検討を行う。</p>	

教育センター

	事業内容	実施状況	今後の取組	報告状況
教育センター	◆デジタル適応支援教室「U@りんくす」の運営	4月～ ・利用者の募集開始 5月～ ・オンラインによる活動の本格実施 ・宇都宮動物園や宇都宮城址公園でのライブ配信の実施 6月～ ・社会人への職業インタビューの実施 7月 ・各定時制高校・通信制高校・サポート校に係るオンラインオープンキャンパス及び合同説明会の開催 7月～ (参加校9校, 参加児童生徒数20名, 参加保護者13名) ・児童生徒及び保護者とのオンライン面談の実施	○「学びの機会の保障」と将来の「社会的自立」に向けた支援 ⇒夏休み期間及び冬休み期間を活用した「U@りんくす」を利用する児童生徒の来所による体験活動を実施する。 ⇒学期末及び年度末におけるオンライン保護者会並びに進級・卒業に係る特別活動を実施する。 ⇒活動プログラムの充実及び運営体制の検討を進める。	・R5.4教育委員会(報告) →デジタル適応支援教室「U@りんくす」の概要について

報告第46号

「令和5年度 宇都宮市幼小連携合同研修会」の開催結果について
「令和5年度 宇都宮市幼小連携合同研修会」の開催結果について、次のように報告する。

令和5年8月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

「令和5年度 宇都宮市幼小連携合同研修会」の開催結果について

◎ 趣旨

「令和5年度 宇都宮市幼小連携合同研修会」の開催結果について報告するもの

1 目的

令和4年度に策定した「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」における重点施策・事業として位置付けた「幼児教育施設と小学校の教職員同士の相互理解の深化」を推進するため、本市として初めて、幼児教育施設と小学校の合同研修会を開催するもの

2 開催結果

- (1) 日時 令和5年8月2日（水）14：00～16：35
(2) 場所 宇都宮市教育センター 1階コミュニティーホール
(3) 対象 幼児教育施設：年長児を担当する先生など44名
市立小学校：1年生を担当する先生など52名
(4) 講師 栃木県幼児教育部 栃木県幼児教育センター 指導主事
(5) 実施主体 宇都宮市教育委員会
共催：宇都宮地区幼稚園連合会，協力：宇都宮市私立保育園協会

(6) 研修内容

ア 講話

「幼小の連携と円滑な接続について」

イ グループワーク

（各グループ：6名程度，近隣の幼児教育施設・小学校で構成）

- 事例発表（山王認定こども園，平出幼稚園，富屋小学校，平石北小学校）
- 意見交換

あらためて感じたこと，今後自園・自校で参考にしたい点について

3 参加者の感想

- ・ 幼小連携の推進のため，職員同士の交流会などざっくばらんに話せる場で交流を深めることが良いと思う。
- ・ 普段，幼児期の先生達と話をする機会が無かったので，良い機会だった。保育園・幼稚園で伸ばしたい力や思いを小学校に繋いでいく必要性を感じた。
- ・ 架け橋期やスタートカリキュラムなど，小学校と幼児教育を繋ぐ取組の重要性をあらためて理解することができた。
- ・ 実際に身近な小学校，幼児教育施設の方々とテーマをもとに語り合うことでお互いの良さに気づくとともに，幼小の連携の大切さをあらためて実感した。
- ・ 貴重な機会だったので，次年度も開催を希望する。

報告第48号

宇都宮エスペール賞プロポート事業「エスペール賞受賞者学校派遣事業」について

宇都宮エスペール賞プロポート事業「エスペール賞受賞者学校派遣事業」について、次のように報告する。

令和5年8月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

宇都宮エスペール賞プロポート事業「エスペール賞受賞者学校派遣事業」について

- 1 概要 世界・全国で活躍するエスペール賞受賞者を市内小中学校等に派遣し、子どもたちにより質の高い文化芸術に触れる機会を提供するもの。
- 2 開催期間 令和5年9月～令和6年2月
※ 令和5年6月5日（月）～7月13日（木）まで開催校の募集
- 3 開催校 10校（市内小・中学校・特別支援学校）
- 4 会場 開催校の教室・体育館等
- 5 内容 受賞者による講演及び解説，ワークショップやコンサートなど
- 6 実施時間 通常の授業時間 1時限～2時限分
- 7 講師 宇都宮エスペール賞受賞者

○開催校：平石北小，上河内西小，横川西小，篠井小，岡本北小，陽南小，新田小，宇都宮短期大学附属中学校，星の杜中学校，宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校

○令和5年度講師一覧

受賞者	分野
川久保 博史	音楽（オペラ）
遅澤 佑介	舞踊（バレエ）
笹川 アツコ	デザイン
吉澤 延隆	音楽（箏）
黒岩 航紀	音楽（ピアノ）

※ 学校の希望により文化課で講師及びスケジュールを調整

過去の学校派遣事業の様子



令和3年10月26日実施
バレエダンサー遅澤佑介氏



令和元年の実施の様子
【ピアニスト：黒岩航紀氏】

令和５年度第１回視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について

- 1 開催日時 令和５年７月１１日（火）午後２時～３時
- 2 開催場所 宇都宮市立東図書館集会室
- 3 出席委員
木嶋委員，新村委員，須田委員，鈴木委員，飯田委員，坂井委員，瀧本委員
（欠席：高野委員，石田委員，石塚委員）
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事
 - （１）委員長・副委員長選出
 - ・委員の互選により，瀧本家康委員を委員長に選出
 - ・委員の互選により，坂井幸一委員を副委員長に選出
 - （２）報告事項
 - ア 令和４年度視聴覚ライブラリー利用状況について
 - イ 令和４年度視聴覚ライブラリー事業実績について
 - ウ 令和５年度視聴覚ライブラリー運営目標について
 - エ 令和５年度視聴覚ライブラリー事業計画について

【主な意見】

- ・（ウの運営目標に対して）ICT 環境やデジタル化の推進に対応した機材が提案されているが，具体的にはどのような機材を導入する予定なのか。
⇒利用者の方からの要望を踏まえて，コロナ禍で利用が高い Web 会議等のオンラインでの対応に即した音声ミキサーやワイヤレスマイク，中継・配信等に必要な機材を導入する予定。